

Human

水田を守るために 新しい技術を届けます

農業技術コミュニケーター
片岡 知守 (かたおか とももり)



うような結果が得られず九州での直播栽培に壁を感じていました。

農薬への漠然とした問題意識から

兵庫県の田舎に生まれ、実家は農家ではありませんでしたが、田んぼに囲まれて育ちました。幼いころから農薬をできるだけ減らしたいという思いがあり、作物の病気や害虫の研究をする道に進みました。1997年に農林水産省に採用されてからは東北農業試験場（秋田県大仙市）でイネの品種改良をしてきました。

東北ではイネに発生する「いもち病」の怖さと病害防除における農薬の重要性を体感しました。一方で病気に強い「品種」の力も実感でき、以後現在に至るまでいもち病に強いイネの研究と品種育成をしています。

稲作の軽労化に貢献できれば...

当時、代かき後の水田に田植えをせずに直接種もみを播く「湛水直播」栽培が稲作の人手不足を解消する技術として期待されていました。広い水田で芽を出して育っていくイネに惹かれ、直播栽培に向く品種を育成しようと熱が入りました。幸い「萌えみのり」を育成できましたが、その過程でお世話になった機械の研究者と岩手の農家さんは代かきもしないより省力的な「乾田直播」栽培に取り組んでいらっしゃいました。

10年間の東北での仕事が一段落して九州沖縄農業研究センター（福岡県筑後市）に異動し、九州でも品種育成を通じて直播栽培の普及に貢献したいと意気込んでいました。ところが、湛水直播では大雨が降ると田んぼの表面に水がたまり、ジャンボタニシとして知られるスクミリングガイが発芽したてのイネを食べてしまいました。そのため思

乾田直播との再会

九州に来て15年目の2023年に、農業技術コミュニケーターとして九州向けの「乾田直播」栽培の普及も手掛けることになりました。麦を収穫したあとの乾いた水田に直接種もみを播きます。代かきをしない代わりに高速振動する鉄のローラーで田面を押し固めて水もれを防ぐ方法です。代かきをしないので大雨でも水は適度にはけていきますし、水をためる頃にはイネは丈夫に育っているのでスクミリングガイに食べられる心配はありません。直播栽培への熱がよみがえってきました。北国岩手で出会った「乾田直播」技術をもとに稲麦二毛作をする九州向けの栽培法が開発され、今九州で自分が普及の一翼を担う。子供のころ何気なく見ていた水田ですが、年々減りゆくのを残念に感じるようになった今、品種や技術が水田の維持に役立てばと思い仕事をしています。

ところでこの栽培法、適切な農薬とそれを絶妙に使いこなす技術なしには不可能です。「農薬をできるだけ減らす」という思いを実現するため、最新の開発技術も勉強しながらその普及に取り組んでまいります。



▲雑草のない綺麗な水田にイネだけが健全に育つ乾田直播。適切な除草剤と最適な使い方の恩恵です。